

水がらのメツセージ

豊秋小学校 五年一組

高橋

優音ゆうおん

「おい、優音。ぼくを止めてくれー。」

ぼくは水。今学校のトイレの水道にいるけど、三つのじゃ口ヨからチヨ口ヨと出っ放しなんだ。ぼくの声は優音には聞こえないけど、「もっ、たいないなあ。」と言いながら、「じゃ、口をしめてくれた。ぼくを助けてくれた優音は、毎日どのようによく使っているのだろう。ぼくは優音の生活を見てみることにした。」

優音の家に来た。今は朝。優音は半分おぼけたまま、ノ口ノ口と顔を洗っている。ぼくが無駄に使われているなあ。三十秒間ぼくを出し、放しにするだけで、ユツプ三十杯分、約六リットル使っているんだ。もっ、と手早く洗ってくれば、節水になるのに。そして朝食。ぼくは、お茶やみそ汁という姿になって登場する。人間は毎日約三リットルの水をとる必要があるから、残さないでね。優音はその後トイレや歯みがきでぼくを使い、麦茶を

水とうに入れて学校へ行^った。

「絵の具のバケツに、水をくんで来て下さい。」という、先生の声が聞こえた。ぼくは凶工や理科の実験など、授業でも使われる。給食の時間になると、みんな水道になりんで丁寧に手を洗う。石けんを使っている間は、一時的にじや口をしめてくれている。ぼくを大切に使うてくれてうれしいなあ。そして食後は、歯みがき、そうじとぼくの出番は続いた。五時間目の体育はマラソンだった。のど

がかわいた優音は、水とうの麦茶をガブガブ飲んだ。水とうを持^って来ない子は、水道水を飲んでい^る。日本では当たり前のように水道水を飲んでい^るけれど、じや口がらそのまま飲める国は、世界に十五カ国しかないんだ。日本の浄水場は毎日きれいな水道水を、二十四時間休まずにみんなの家や学校へ送^ってくれているんだよ。浄水場や汚水処理場があるおかげで、ぼくは優音達の生活に役立つことができるんだ。

家に帰った後、優音は手洗いとうがいでぼくを使った。夕食をすませ、いよいよぼくが最大に活やくするお風呂だ。日本人一人当たりの、生活に使う水の量は世界二位で、一日に二〇〇〜三〇〇リットル使用している。これは世界平きんの約二倍なんだ。日本のお風呂は浴そうに水をためるから、この結果なのかもしれないね。お風呂は、一日の水の使用量の四〇パーセントをしめているから、ぜひ節水してほしいな。優音の家では、シャワーはなるべくひかえて浴そうにためたお湯を使ったり、お湯が冷める前に家族が時間をあけずに続けて入っているね。お風呂から出てホカホカの優音は、水分ほ給をしてトイレに行き、ベッドに入った。今日一日、ぼくの出番は多かっただね。じや口をひねるとすぐきれいな水が出てくるから、とても便利だ。でも世界には、池や川の水をそのまま使ったり、長時間かけて運ばないと水が使えない人達がいる、という事をわすれないでほしい。

水は限りがある大切な資源だ。ぼくを守るために、次の事を心がけてほしい。まず毎日の生活の中で自分で出来る節水を考え、実行しよう。次に、川や海を汚さないために、汚水をへらす努力をして、かんきょうを守ろう。最後に、水のある生活が当たり前だと思わずに、きれいな水道水が毎日使えることに感謝の気持ちを持つよう。

これからも水に関心を持ち続けて、ぼくを大切に使うてね。